

四月十三日聯隊長は師團命令に基きIに對し150高地に對し大規模の斬込を以て敵進出の妨害並に擾亂を命じたるも遂に成功するに至らず第一中隊長鈴木中尉以下數十名を失ふ、戦果不明なり

ハ師團主力の首里附近進出に伴ひ聯隊は中地區隊として翁長I幸地の線を確保し敵を陣前に破推すべき命を受けIを以て同線を占領せしめ四月二十三日所命の如く配備を完了す

ニ四月二十五日頃より敵は逐次陣前に現出し來る  
同時聯隊本部は運玉森より辨ヶ嶽に移動す

ホ四月二十二日頃Iは聯隊に復歸し右第一線となり首里秘密飛行場東側台地を占領す

ヘ右陣地に對し敵は二十七日頃より戦車を先頭とし攻撃し來りIは之と戦力斗五月三日朝迄連日其陣前に於て一五〇一二〇〇の敵を討するの戦果を擧げ其企圖破推に努力せるも我方亦

損害甚かりし此間歩兵中隊長以下多数を失ふ  
歩兵第八十九聯隊

イ四月十五日<sup>62D</sup>の状況に鑑み師團命令に基きIを運玉森に進出同地を占領せしめ四月二十日他部隊と交代復歸す

ロ聯隊は新作戦準備の爲首里戦線に轉進の命令を受け四月二十七日日没後行動開始左の如く移動す

聯隊本部 新 洲

I 津嘉山附近

II 首里到着と同時に 521 に配屬

III 南風原附近

ハ師團命令に基きIへT A 一小、RIA 一小、M 一中配屬し四月二十八日

出發二十九日首里到着 521 長の指揮に入らしむ

ニ聯隊は前項の位置に於て總攻撃の準備をなす

歩兵第三十二聯隊

イ 聯隊は師團命令に基きIを基幹とする部隊を四月二十二日夜出發四月二十三日夜新川附近に於て師團長の直轄たらしむ同部隊は爾後師團長直轄として小波津附近を確保し右II 891 左 221 に連繫し連日力戰奮斗し多大の戦果を收め師團長より賞詞を受け四月二十八日 I 891 と交代二十九日首里北側に於て聯隊に復歸せり小波津附近の戰鬥に於て失へる兵力約半數なり

ロ 聯隊主力（I 基幹欠）は師團命令に基き二十三日日没後原駐地出發同夜南風原、津嘉山、本部、長堂周邊地區に潛伏次で一大隊の兵力を以て速に前田北端を確保し 62D 賀屋支隊を救出すべき師團命令を受領し聯隊長はIIを基幹とするものを以て二十六日夜同地出發せしむIIは二十七日夜前田部落を確保し同支隊を救出し任務を達せるも同地進出の爲の戰鬥に於て多大の損害を受け其兵力の約半數を失へり戦果大なりしも實數明瞭ならず

ハ 聯隊主力は爾後首里東側地區に東面して陣地構築を命ぜられ

築中なりしものを中止し聯隊主力を以てIを併せ指揮し前田側側台地を占領確保すべき師團命令に基き二十八日夕出發二十九日夕同地に進出之を確保したるも進出迄に既に約半數の損害を蒙れり

ニ 四月二十九日聯隊正面の重要なるに鑑み 891 を聯隊に配屬せらる

師團の右翼方面に於ては 221 の戰鬥地域たる 120、116 高地附近に對し敵逐次浸透し來りしを以て師團は聯隊に對し之が奪回を命ず

聯隊長は小波津附近より交代歸還せるIを以て 146 高地、新に配屬せられたる II 891 を以て 120 高地の奪回攻撃を命じ 146 高地は五月一日夜之を奪回し得たるも II 891 の攻撃は五月一日、二日の再度に亘りつれせるも成功せず其儘總攻撃を實施するの已むを得ざるに至れり

ホ 五月三日夜 II 891 を聯隊長の指揮より脱し原所屬に復歸せしめらる

集中なりしも之を中止し聯隊主力を以てIを併せ指揮し前田兼  
側台地を占領確保すべし師團命令に基き二十八日夕出發二十九  
日夕同地に進出之を確保したるも進出途に既に約半量の損害を  
蒙れり

二四月二十九日聯隊正面の重要なるに鑑みII 891を聯隊に配屬せら  
る

師團の右翼方面に於てはII 221の戰鬥地境たる120、116高地附近に對  
し敵遂次浸透し交りしを以て師團は聯隊に對し之が奪回を命ず  
聯隊長は小波津附近より交代歸還せるIを以て146高地、新に配  
屬せられたるII 891を以て120高地の奪回攻撃を命じ146高地は五月  
一日夜之を奪回し得たるもII 891の攻撃は五月一日、二日の再度  
に亘り實行せざるも成功せず其儘總攻撃を實施するの旨を得ざる  
に至れり

亦五月三日夜II 891を聯隊長の指揮より脱し重所屬に復歸せしめら  
る

る

七四月三十日軍は前面の敵に對し總攻撃を実施し一舉に敵を撃滅するに決し攻撃命令を下達する所あり其の要旨左の如し

1. 攻撃開始の時期 五月四日〇四五〇より三十分間攻撃準備射撃を實施したる後攻撃を開始す

2. 進出線 普天間東西の線

3. 62Dとの作戰地境 現在の通り

去師團は右命令に基き五月一日早朝攻撃に關する命令を下達し各部隊をして攻撃を準備せしむ

去總攻撃に於ける師團各部隊の狀況概ね左の如し(要圖第四参照)

1. 師團長は首里戰鬥司令部に在りて作戰を指揮す

2. 歩兵第八十九聯隊

イ 聯隊は右突進隊となり四日正午頃より行動を開始し一七〇〇を期し攻撃を開始すIIは當時321の指揮を脱し首里方向より復歸途

去師團は右命令に基き五月一日早朝攻撃に關する命令を下達し各部隊をして攻撃を準備せしむ  
去總攻撃に於ける師團各部隊の狀況概ね左の如し(要圖第四参照)  
1. 師團長は首里戰鬥司令部に在りて作戰を指揮す  
2. 歩兵第八十九聯隊  
イ 聯隊は右突進隊となり四日正午頃より行動を開始し一七〇〇を期し攻撃を開始すIIは當時321の指揮を脱し首里方向より復歸途



土四月三十日軍は前面の敵に對し總攻撃を實施し一舉に敵を殲滅するに決し攻撃命令を下達する所あり其の要旨左の如し

1. 攻撃開始の時期 五月四日〇四五〇より三十分間攻撃準備射撃を實施したる後攻撃を開始す

2. 進出線 普天間東西の線

3. 62Dとの作戰地境 現在の通り

去師團は右命令に基き五月一日早朝攻撃に關する命令を下達し各部隊をして攻撃を準備せしむ

去總攻撃に於ける師團各部隊の狀況概ね左の如し(一要圖第四參照)

1. 師團長は首里戰鬥司令部に在りて作戰を指揮す

2. 歩兵第八十九聯隊

イ 聯隊は右進隊となり四日正午頃より行動を開始し一七〇〇を期し攻撃を開始すIIは當時321の指揮を脱し首里方向より復歸途

中をり

當時敵の銃爆撃及迫撃砲、艦砲射撃熾烈にして損害極めて大なり

ロ 五日I、IIは要圖第四の位置に達するや時既に天明にして敵の銃爆撃、迫撃及艦砲射撃の集中を受け部隊は混沌たる状態となり指揮官の大部分死傷せり、殘存者は指揮官を失ひ或は負傷し稍々無統制の状況となる依つて聯隊は一時攻撃を中止するの已むを得ざるに至れり

ハ IIは當時第三線部隊として連玉森附近にて攻撃準備中なり  
ニ 總攻撃の中止に伴ひ師團命令に基き一時空城に後退し再編成を命ぜられ各部隊より兵員の補充を受け五月十日I、IIの編成を完了せり

ホ 本戰鬥に於ける損害概ね左の如し

1. I、IIは全滅各中隊生存者十名内外にして指揮官は殆ど皆

無の状態なり

2. II 第六中隊は中隊長以下幹部殆ど全滅

3. I 長九地大尉 II 長和田大尉戦死

3. 歩兵第二十二聯隊

聯隊は中突進隊となり右 891 左 321 に連繫し特に其の一部を以て翁長西側台地の敵を撃滅して右突進隊の攻撃を容易ならしむる如く命ぜられ I をして此の任務に當らしむ

聯隊は四日〇四五〇よりの攻撃準備射撃及突撃支援射撃に膚接し攻撃前進し幸地北端附近の線迄進出せしも遂に總攻撃中止となる第十一中隊は中隊長以下全員歸還せず

4. 歩兵第三十二聯隊

I 聯隊は師團の左突進隊として左の如く戦闘す

I は〇五〇〇行動開始第一線大隊として 120 高地を経て棚原西北側高地に前進する如く命じたるも天明と共に敵の猛射猛爆を受

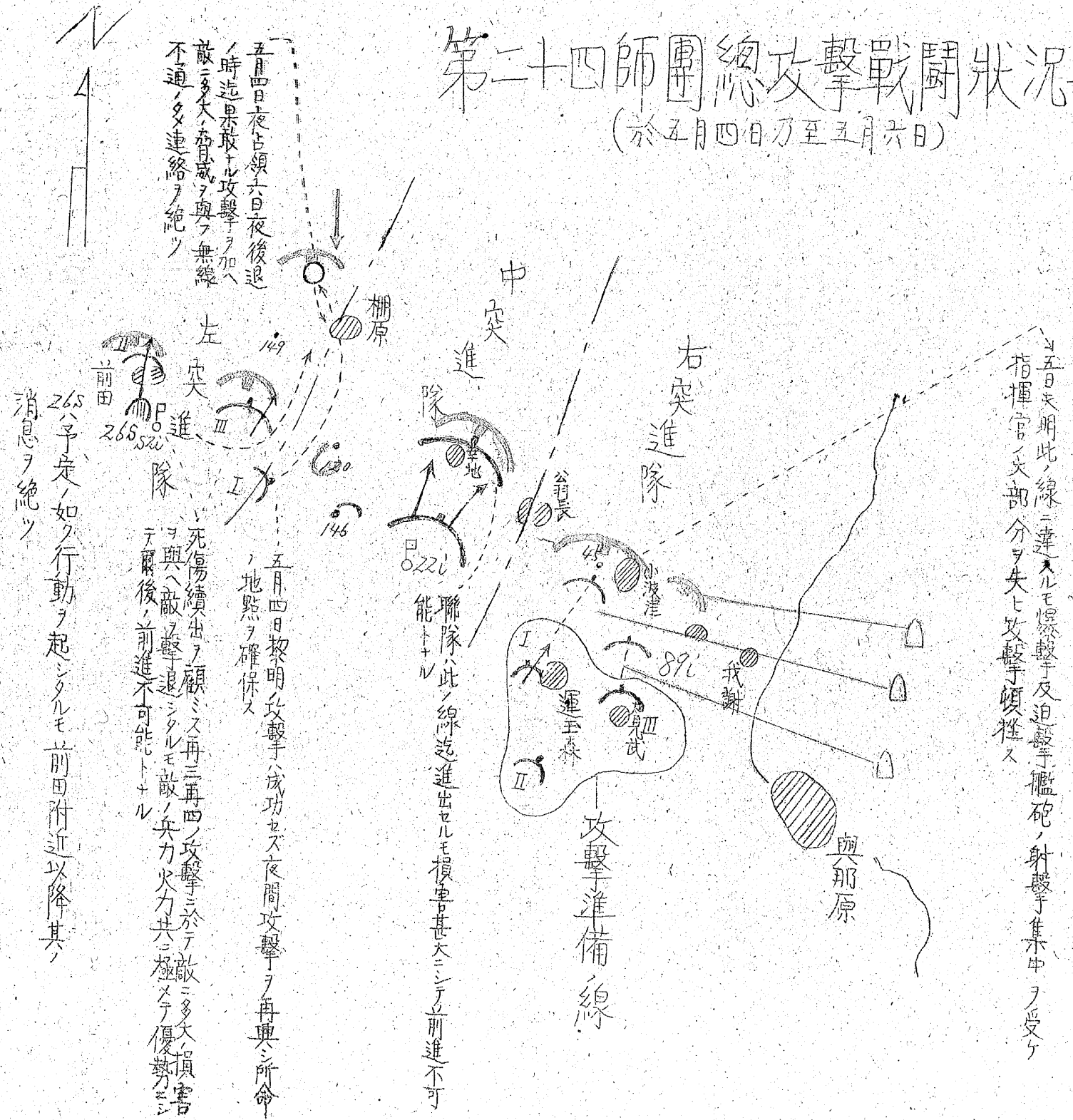
け第三中隊の如き 70% の損害を被るに至り已むなく晝間の攻撃を一時断念し夜に入り聯隊命令により攻撃を再興し 120 高地前田の中間地區を突破し予定の棚原西北台地を確保す翌五日天明と共に敵の猛火猛攻撃を受け死傷續出したるも翌六日聯隊命令を以て後退する迄約三日間能く頑強に之を確保し敵線内深く敵に與へたる脅威大なるものあり軍需令官より感状を授與せらるる 26 は第二線大隊として 142 高地進出を命じ予定の如く前進したるも前田附近以降消息を絶つに至れり

II 連は友軍砲兵支援砲臺の下前田附近敵突破の後第三線攻撃部隊として第二線大隊に跟随すべきを命じ予定の如く行動を開始したるも敵の熾烈なる銃砲爆撃の爲死傷續出し前進不可能となり聯隊長は四日夜更に部署を變更し攻撃前進を再興したるも前進し得ず II の如き全く敵の重圍に陥り脱出不可能となる

# 第二十四師團總攻擊戰鬥狀況要圖

(於五月四日乃至五月六日)

要圖第四



五月四日夜占領六日夜後退  
時迄果敢ナル攻撃ヲ加ヘ  
敵ニ多大ノ脅威ヲ與テ無礙  
不遁ニ多連絡ヲ絶ツ

265 予定ノ如ク行動ヲ起シタルモ前田附近以降其ノ  
消息ヲ絶ツ

五月四日黎明攻撃ヲ成功セズ夜間攻撃ヲ再興シ命  
ノ地點ヲ確保ス  
死傷續出ヲ顧ミズ再三再四ノ攻撃ニ於テ敵ニ多大ノ損害  
ヲ與ヘ敵ヲ撃退シタルモ敵ノ兵力火力共ニ極メテ優勢ナリ  
テ爾後、前進不可能トナル

聯隊ハ此ノ線迄進出セルモ損害甚大ニシテ前進不可  
能トナル

五月六日明此ノ線ニ達スルモ爆撃ヲ及迫撃手榴彈ノ射撃ヲ集中ヲ受ケ  
指揮官ノ大部分ヲ失ヒ攻撃ヲ頓挫ス

五月五日夕師團は軍命令により總攻撃を中止し戰略持久の態勢を更に強化するため首里北側地區に轉進すべき軍命令を受領したるを以て師團は概ね左の如く行動す（要圖第六參照）

1. 師團長は依然首里戰鬥司令所に在り
2. 歩兵第八十九聯隊

イ. 五月七日は配備を完了し且亦十日再編成を了り各部隊は總攻撃前の陣地を堅固に確保し戰鬥を繼續す

五月九日頃より敵は小波津正面より運玉森正面に向ひ攻撃を開始す運玉森及高地附近は五月十日頃より敵の猛攻を受け第五中隊の一小隊は同十二日高地に於て全滅す

敵は逐次小波津西北方高地方向より主攻撃を指向し來る當時第七中隊は安里西北方高地に於て戰鬥中なりしが五月十五日頃其兵力殆ど皆無の状態となれり

五月二十五日運玉森は敵手に陥り屢々之が奪回攻撃を實施せる



も遂に成功するに至らずIⅢ亦逐次壓迫を受くるに至れり  
五月二十五日夜敵は我謝方向より與郡原附近を強行突破し雨乞  
森、島袋の線に進出す

五月二十六日聯隊は一部戦線の整理を命ぜられ約五、六百米後  
方地帯の陣地を確保すIIは依然現位置に在り

與郡原附近を突破せる敵は逐次兵力を増加し我後方に進出す  
聯隊は多大の損害を生じたるを以て他部隊より兵力の補充を受  
け五月二十七日頃與郡原突破の敵を攻撃したるも遂に成攻せず

3. 歩兵第二十二聯隊

I. 聯隊は總攻撃中止後原陣地を確保し連日力斗す八十九聯隊方面  
に於ては小波津附近に敵の侵入する所となり之が爲聯隊の右翼  
又敵に曝露し大なる脅威を受くるに至る又左第一線II方面とI  
との中間地區に敵溢出し來れるも各隊既に兵力の激減を來し辛  
うじて敵を拒止す

五月四日夜<sup>28</sup>を聯隊の正面に増強せられ一時陣地を強化し得た  
るも該部隊亦數日にして潰滅的打撃を受け聯隊營にIは敵中に  
突出孤立し現陣地の保持困難となりつゝあり

此頃迄に各大隊は既に幹部以下其の大部分を失ひ兵力僅に百名  
内外となる

聯隊長は漸に解体轉屬せしめられたる<sup>28</sup>及獨立整備隊那彌分廠  
要員をIⅢ兩大隊に配屬し辨ヶ嶽附近より<sup>150</sup><sup>140</sup>高地線に右より  
IⅢIIを配置し新に陣地を占領せしめ此間作井隊、獨立機關銃  
隊等より人員兵器の補充を受けたるも各大隊の戦力大隊長以下  
數十名にして一〇〇名に満たず兵器彈藥の補充又意の如くなら  
ず

敵は新陣地に對し五月十三日頃より攻撃を開始し第一線各部隊  
は連日激斗せるも損害甚大にして聯隊本部等の人員其の他負傷  
者に至る迄之を戦線に送り全力を竭して力斗せるも如何せん各

大隊其の人員僅に十數名に過ぎざる状態となりIは五月二十日  
 IIは同十九日遂に敵の爲重圍に陥りIの救援を得て辛うじて  
 140高地を保持しあるに過ぎず此の頃Iの鞍馬大隊新に辨ヶ嶽附  
 150高地を保持しあるに過ぎず此の頃Iの鞍馬大隊新に辨ヶ嶽附  
 近に陣地を占領しIIの全滅に伴ひ激戦中なりしを以て聯隊長は  
 新に轉屬せしめられたる白砲大隊長緒方少佐を長としてIIを編  
 成し一數十名一以て此の戦斗に参加せしめ鞍馬大隊を併せ指揮  
 せしむ

此の頃Iの長は封塞せられたる陣地より奇蹟的に逐次脱出した  
 るを以てIIを編成戦斗に参加せしめIを予備とし首里新川附近  
 に於て轉屬者等を以て大隊の再編成を爲さしむ

歩兵第三十二聯隊

I五月七日、新に29bsを配屬せらる  
 同日聯隊は勝山北端及經塚北端を連ぬる線を占領し持久すべき  
 任務を受領す當時Iは棚原より轉進歸還し石嶺北側附近に集結

す總攻撃に伴ふ同大隊の損害は甚大にして大山大隊以下多くの  
 將兵を失へり

只聯隊は屢次の戦斗に依り戦力の減耗甚大にして新にIの一甲、  
 26bs 29bs 24Tの一部、沖繩聯隊區司令部將校以下一〇、海上挺進第二  
 十六戰隊の一部を編入せしめられ各大隊を改編す

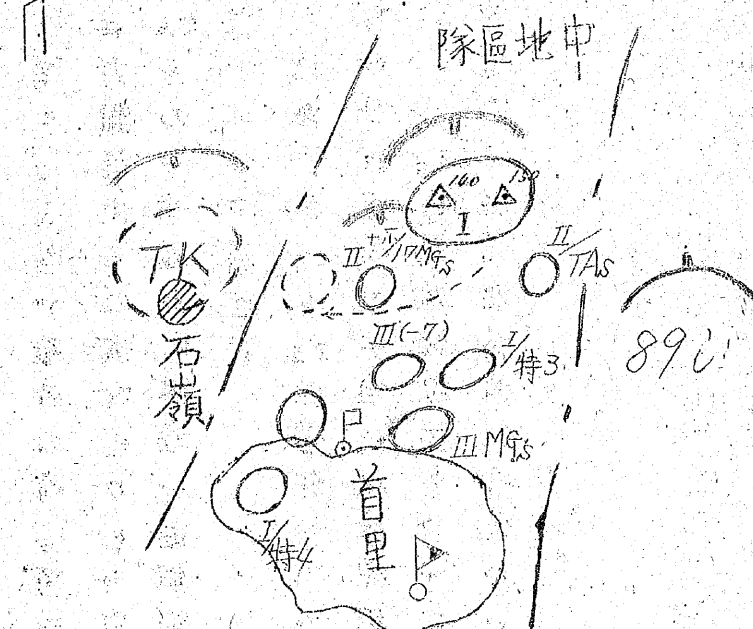
敵は(1)頂陣地線に對し逐次主力殊に戦車を以て勝山方向より攻  
 撃すると共に經塚西方(2)正面より鐵道を加ふ第一線大隊は優勢  
 たる敵に對し能く陣地を確保し聯隊正面は五月十七日頃には著  
 しく敵方に突出するに至る

五月十七日聯隊は中地區險となり戦車隊の右翼(1)TKは石嶺附近  
 を占領し(2)に連繫し石嶺東北側(1)130高地(1)140(1)150高地に直  
 の陣地を占領す(3)き師團命令を受領し與圖第五の如く陣地を占  
 領す

步兵第三聯隊陣地佔領要圖

(迄頃%は頃%)

要圖第五

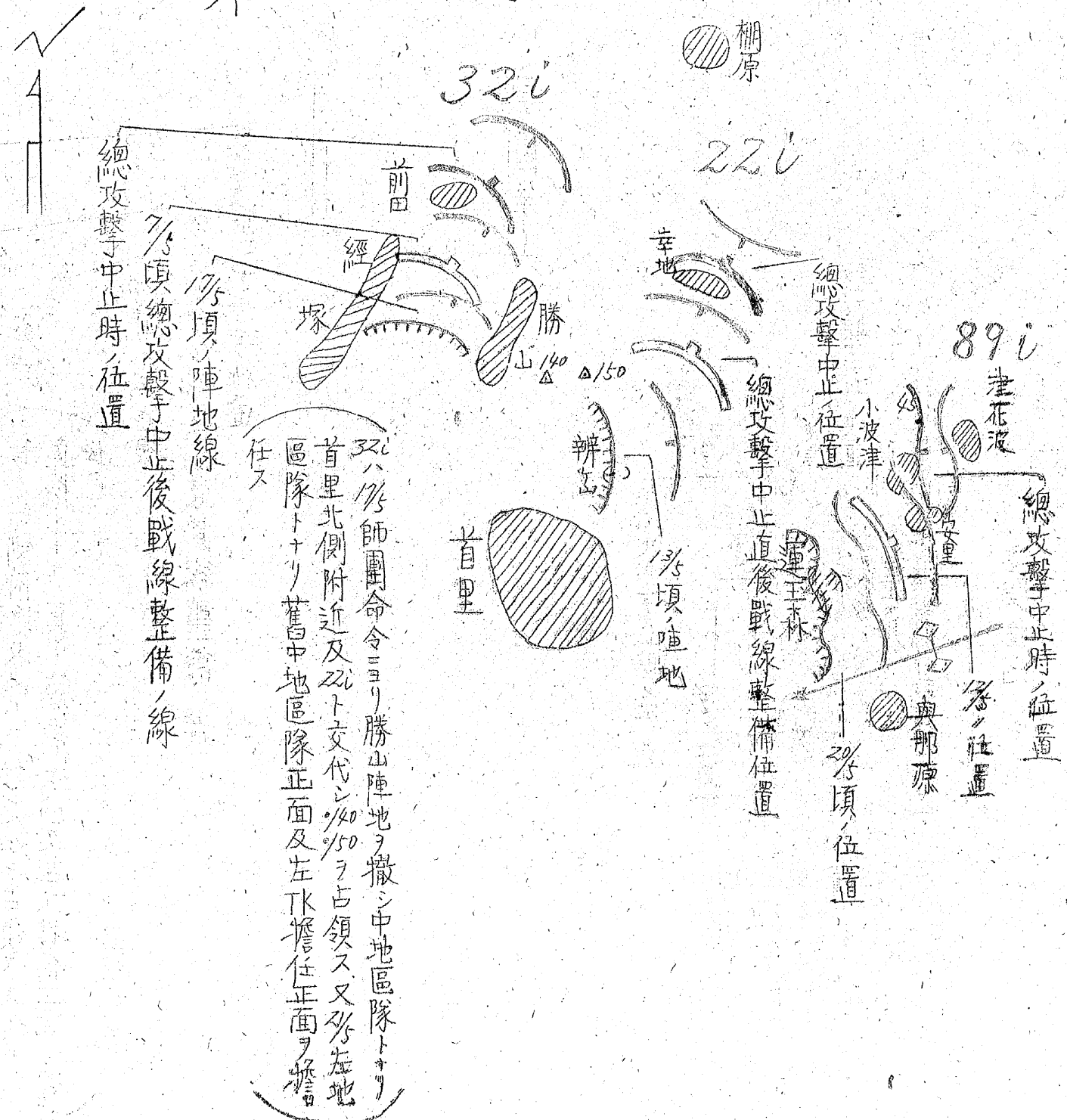


本 I は 150 高地を占領しありしが連日の激斗により損害甚大にして五月二十日に至り毎日四十数名の死傷者を出し之が補充のためには後方の兵力涸竭するの虞大なりしを以て師團長の認可を得て之を後退 TA との間地区に陣地を占領戦斗せしむ此時 I の兵力は大隊長二十数名に過ぎず

五月二十一日左地区隊となり TA の擔任地帯を併せ擔任すべき師團命令に基き聯隊長は従來の中地区隊の配備を其體とし TK の陣地を左第一線とし I 特 4 の鈴木大隊長をして之を指揮せしむ  
 去線攻撃中止後五月下旬師團島尻地区轉進迄に於ける状況概ね要圖第六の如し

第二十四師團態勢要圖 (自總攻擊中止時至島尻地區轉進時)

要圖第六



320 師團命令ニヨリ勝山陣地ヲ撤シ中地區隊トナリ  
首里北側附近及220ト交代シ1/40ヲ占領ス又220左地  
區隊トナリ舊中地區隊正面及左ト擔任正面ヲ擔  
任ス



一、師團は軍命令に基き更に戦略持久を強化する目的を以て五月二十八日鳥尻地區轉進に關する師團命令を下達し概ね左の如く部署す

1. 師團司令部 六月二日新垣に轉進

2. 891は五月二十九日現陣地撤退三十一日與座に集結

3. 221は五月二十八日現陣地撤退友寄附近鏡波川の線を占領し第二收容部隊となり六月七日眞壁附近集結

4. 321は現陣地に概ね1.5兵力を五月三十一日迄残置し五月二十九日出發全力を以て南風原、國場間國場期の線を占領し六月二日夜同陣地撤退同日大城森附近に集結

二、師團各部隊は前項部署に基き概ね左の如く行動す

1. 師團司令部は五月二十八日首里出發、津嘉山に一日潛伏の上二十九日新垣に集結す

2. 歩兵第八十九聯隊

五月二十九日進玉森南北の線出發五月三十一日與座に集結す

聯隊本部、I、IIは南風原、山川、東風平村經由東風平村に一日潛

伏の上三十一日與座に集結す  
IIは聯隊の收容部隊として首里南方吉家、82高地を占領し收容し

たる後與座に集結す  
3. 歩兵第二十二聯隊  
五月二十八日現障地出發第二收容部隊となり同夜友寄附近饒波川

の線を占領  
五月三十一日頃より敵は逐次追尾し來り各大隊共に輕戰したるも  
敵は逐次迂回溢出す

聯隊は一部を殘置して眞壁に轉進し師團予備となるべき命を受け  
六月一日夜Iを志多伯に殘置し七日眞壁着予備隊となる

Iは志多伯に及て優勢なる敵の攻撃を受け善戰能く敵の銃鋒を挫  
きたるも遂に六月七日夕敵の重圍に陥り漸く之を脱出して八日夕  
眞壁に轉進す

歩兵第三十二聯隊

聯隊は約13の兵力を障地に殘置し五月二十九日夕撤退す此の時敵  
は既に松川方面より侵入し舊城趾を占領せるも能く之を突破し予  
定の如く同日夕Iを以て國場川の線、本部附近I、特を以て一はI  
はる驛一附近、IIを以て一いちにばし一附近を占領す

聯隊本部は津嘉山に位置す  
右翼嘉屋、神里附近には62D、左翼豊見城附近には海軍部隊あり

敵は五月三十日頃より主力一戰車を伴ふを以てI方面の一部を  
以てI、特、II方面に逐次進出し來り第一線部隊能く之を拒止し苦斗  
多大の戦果を収め予定の如く大城森、賀敷附近に集結を完了す

第三 島尻地區到着より戰鬥終焉迄

一、六月三日師團は軍命令に基き再び歩兵聯隊を基幹とし之にMG、As、特  
設聯隊等を編入し再編成を行ふ、爾後屢次に互り經理、衛生、獸醫  
等將校以下兵員の補充により減耗せる兵力は概ね充足し得たるも所